![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成２９年９月号（20170929）　　　　　　　　　　　　　　　　　園長　平澤　正則

あいさつができない子はおかしいか？

そんなことはないのです。先日の保護者会の折は短い時間でさっと話しましたので，思っているすべては話せませんでした。そのため「あいさつができない子はおかしい」という誤解で苦しむ方もいますので，もう少し踏み込んだ話をいたします。

あの時，私はあいさつを教えるのは親の責任です，と言いました。しかし，それは「大抵の場合」のことであり，数値で言えば，８０％程度だと思います。親がどんなに努力しても望む結果がでない子もいるのです。今日はそのことについて，ほんの一部ですが紹介いたします。これまたきちんと語ろうとすれば，１枚の紙に書き切れるようなものではありませんので，ご容赦願います。

発達障害という言葉は聞いたことがあると思います。「障害」の「害」という言葉に抵抗があるという考えで「障碍」とか「障がい」と言い換えることが最近では増えつつありますが，いずれにしても「ショウガイ」という言葉を聞くと，多くの人は驚いたり，不安に駆られたりするものです。しかし，学説によれば程度の差こそあれ多くの人がその可能性を秘めているとされています。検査をしないからそう診断されていないだけ，という場合も少なくないということです。

注意欠如・多動性障害という症状があります。一つのことに集中しようとしても，眼や耳から入ってくる様々な情報に次々に注意が向けられ，周りからみればまるで人の話を聞いていない，ボッーとしている，勝手な振る舞いをしているなどの評価を受けます。例えば皆さんが昔教室で授業を受けていた頃，いつも先生の話を聞いていなくて注意ばかりされている人やすぐに席を離れて動いてしまう人がいませんでしたか。たぶん，本人は無自覚でふと気が付いたらそうなっていた，などという状態だったかもしれません。ふざけていたり，わざと先生を怒らせているわけではないのです。

　自閉症スペクトラムという症状では，人の顔を直視するのが非常につらいなどの状態もあります。

話しかけられてもどこを向いて答えたらいいかわからない。少し大きくなって人との接触に慣れてきてもどの程度（何秒くらい）相手の顔を見ていれば失礼とならないのか，どのタイミングで視線をそらせれば失礼とならないのか，そんな思いに悩み疲れ果て，人との接触を拒むようになる人もいます。

　これらは，本人のやる気のなさからくるわけではありません。いわゆる「障碍」なのです。音が聞こえなかったり，ものが見えなかったり，歩けないので車いすを使っているのと同じです。

　こう考えると，あいさつができないとかにがてなどということが，本人の怠惰によるものでないことがわかります。つまり，そういう症状，状態の人が世の中にはいるという認識をだれもがもつ必要があるのです。

　人は一人ひとり皆ちがう，と最近ではよくいわれるようになりましたが，あいさつができる，できないにもいろいろなわけがあることを知らなければなりません。そういうこともあると考えられる人になりたいものですね。